

## 牛久自然観察の森へ行ってきました。～その 1. 動物いろいろ

10 月 9 日、3 年生が牛久自然観察の森へ出かけると聞き、ちょうど何も仕事が入ってない日だったので、飛び入りで一緒に歩かせていただきました。そのなかで見られた生き物を紹介します。



### ①カナヘビ(カナヘビ科)

よくトカゲと混同されますが、カナヘビはトカゲよりも尾が長くて、胴の長さの 2～3 倍程あります。また、体はざらざらしていて、腹を地面につけずに肢と尾で支えて歩くことができます。舌はトカゲと違って、ヘビの舌のように細長くて先端が二つに分かれています。林の縁や草やぶにいて、クモや昆虫などを食べます。



### ②トウキョウダルマガエル(アカガエル科)

関東でトノサマガエルと思われているのはこれで、よく間違えられます。エサや生活場所なども同じですが、分布域は重ならないようです。またトノサマガエルは 1,800～3,000 個の卵をややつぶれた球形の大きな卵かいとして一度に産みますが、この種は 800～2,000 個の卵を何回にも分けて小卵かいで産むなどの違いがあります。



### ③シジュウカラ(シジュウカラ科)

胸から腹にかけて黒いネクタイのような帯があるのが特徴。ほぼ全国で繁殖し、そこで越冬もします。校庭の桜の木にもよく来ていました。春～夏には縄張りをもって昆虫やクモ、植物の実などを食べて子育てし、寒くなってくると群れをつくり、他のカラ類やメジロ、コゲラなどと一緒に行動する(混群)のもよくみかけます。



### ④新鮮な？ノウサギの糞

草はらのあちこちに、このような指先くらいの小さな糞がかたまりを作っていました。「臭いかいみたい人！」といわれて「え～っ！」と声が上がりましたが、かいてみるとさすがにいい香りでしたね。草しか食べないからで、私の友達にも、これを材料に紙を漉いた人がいました。 [理科支援員 宮内]